



ビルジニヤノ濫觴及ホカホニタ
スノ前途

第九章 ニウヨルタノ濫觴

第十章 英國ブリタニ宗徒ノ移住及ヒ新
イングランドノ濫觴

第十一章 サレム等各地ノ濫觴

第十二章 ニウハンブセルノ濫觴

第十三章 コン子チカツトノ濫觴及ヒ

ペネロドノ戦争

第十四章 メリーランドノ濫觴

第十五章 デラウエルノ濫觴

第十六章 ニウゼルセイノ濫觴

第十七章 キングヒリツプノ役

第十八章 ビルジニヤノ騷乱

目錄終

米國史卷之二

青森縣 澁江保 纂緝

東京府 山田脩 校正

第八章

ヒルジニヤノ濫觴及ホカホニタスノ前途

首卷ニ於テ已ニ叙スル如ク船將シヨニスミスハ豪邁活潑ニシテ空手日ヲ消スルヲ好マス一千六百八年尚才各地ヲ討索セント欲シ小舟ヲ購シ以テチエサヒークナル海濱ニ達ス曰テ此

濟へ輻流スル各般ノ江河ヲ發明ス然リ而シ已
一經歷發明セシ地方ノ各番ヲ盡ク是ノ時ニ於
テジヨンスミス土人ト貿易ノ道ヲ創メ有無交
通彼此共給ノ一大無盡蔵ヲ開ク此後幾何モナ
クシテニウポルト再ヒ移住ノ民ヲ率ヒビイル
ジニヤニ於テ居住セシム然ルニ斯民皆懦弱ニ
シテ各勤勞ヲ躬ヲスル能ハス故ニ榛棘荒蕪尚
才從前ノ景況ヲ存ス時ニ一千六百九年口ル
デラウエルナル者ビイルジニヤノ守令トナリ
九個ノ船ヲ以テ衣食ヲ積ミ且ツ移住ノ民五百

口ヲ乗セゲエツニウポルト及ソメルスナル三
人ヲシテ此船ヲ假替セシメビイルジニヤニ向
フテ送リタリ然ルニ他ノ船無事ニシテゼーム
ストランニ着スルト雖モ假替ノ乗シ一隻不幸
ニシテ暴風ニ阻隔サレ其船破壊シ殆シト覆没
セントス斯ク危難ニ遭ヒ後九月ヲ経テ漸クビ
イルジニヤニ達スルヲ得ル爰ニ於テジヨンス
ミスハ倦々トシテ倦マス各ヲシテ其所ヲ得セ
シメントス然ルニ新来ノ人皆怠慢ニシテ争論
ヲ好ミ謾ニジヨンスミスニ抗シ其所命ヲ奉セ

サリシ斯ク遊手坐食スルヲ以テ我カ民令糧食
 ニ盡キ其急殆旦夕ニ迫ル時ニ土人ノ酋長ホ
 ハタン移住ノ民此地ニ繁殖スルヲ見テ竊ニ之
 ヲ驚怖シ謂テ曰ク吾ハ今日ヨリ英人ニ供給ス
 スル穀物ヲ有セス又之ヲ賣却スルニモ餘蓄ナ
 シトスミス此言ヲ聞キ如何シテカ彼ノ穀物ヲ
 致サシメント沈思黙按漸ク一策ヲ得タリ即チ
 青色ノ小珠ヲ持シホーハタンニ見ヒ從容彼ニ
 謂テ曰ク是此青珠ヤ至貴至重ノモノニシテ我
 英國ニ於テモ帝王ノ尊ニ非サレハ漫ニ衣服ノ

飾トナシ之ヲ用ユル能ハストホーハタン此言ヲ
 聞キ心竊ニ之ヲ嘉ニシ穀數百石ヲ出シテ之ニ
 更ヘンテ請フ曰テ我民一時飢餓ノ憂ヲ免ル
 他日又銅製ノ一釜ヲ以テ穀一百石ヲ得タリ斯
 クスス數ハ強タル土人ヲ欺キ以テ漸ク我
 國人ヲ扶助セリ偶マスミス彈藥ノ破裂ニ會シ
 其身毆傷ヲ受ク遂ニ英國ニ歸リ来ル後此ノ
 殖民愈ヨ遊惰ニ流レ唯土人ヲシテ我衣食ヲ供
 給セシメントス之ニ曰リテ土人憤怒ヲ發シ相
 共ニ謀テ我殖民ヲ擊破シ遺類ヲカラシメント

欲ス故ニ屢ハ我徒ヲ襲フヲ殺戮ス爰ニ於テ我
 殖民ノ三十名ハ彼ノ一船ヲ掠奪シ漸ク本國ニ
 歸帆セリ然リ而ノ其留連スル者殆ント飢餓ニ
 迫リ漸ク生命ヲ保ツ者僅ニ六十人ノ少キニ至
 ル曰テ後世此ノ時ヲ想シテ飢餓ノ時ト云フ斯
 グ危急ノ秋ニ當リ守令ロルドセラウエル糧食
 ヲ齎ラレ援兵ヲ率ヒ始メテ英國ヨリ到來ス曰
 テ此饑民漸ク餘命ヲ繫クヲ得タリ斯クテセラ
 ウエルノ在職及其嗣令ノ時ヨリ此ビイルジニ
 ヤ漸ク繁栄ニ趣キ稍開化ノ進歩ヲ得ル一千六

百十一年始メテ歐洲ヨリ家畜及豚ヲ輸入ス
 且又我殖民烟草ヲ殖ヘ以テ之ヲ本國ニ運輸シ
 貨幣ノ乏シキヲ以テ之ニ更ヘタリ斯テ婦人ノ
 米國ニ移住セシ者甚稀ナリ爰ニ於テ其新殖民
 ヲシテ其地ニ安着セシメ移動ノ念勿ラシメン
 カ為メ一千六百二十年倫敦會社ヨリ少壯ノ婦
 女九十人ヲ送リ以テ各ノ殖民ニ嫁セシム然リ
 而メ此婦人ヲ娶ル者ハ各烟草一百斤ヲ出シテ
 以テ會社ノ消費ヲ償ハシム明年又婦人数十人
 ヲ送リタリ斯クシテビイルジニヤノ地方ハ直

ニ家屋ヲ以テ充滿シタリ先是我カ船將シヨンス
 三スノ厄ヲ救ヒシ酋長ノ處女ポカホンタスナ
 ル者アリ爰ニ其餘緒ヲ叙シ其末路ヲ知ラシメ
 ントス時ニ一千六百十二年ポカホンタス甫メ
 テ十八歳ナリ或ル人種ノ家ニ遊食ス我カ船將
 アルガル此處女ノ嘗テ我ニ恩惠アルヲ追思シ
 銅製ノ小釜ヲ以テ其人種ニ與ヘ此處女ヲ得テ
 養ヘリ然リ而メ其父ポーハタン此ヲ聞キ其女
 ポカホンタスヲ我ニ要ス我レ若干ノ贖金ヲ得
 テ之ヲ返却セント答フ爰ニ於テポーハタン以

為ク大金ヲ出シテ之ヲ贖ハンヨリ寧口兵カラ
 以テ之ヲ棄ハント將ニ兵端ヲ開カント欲ス適
 マビイルジニヤニ在ル口ルフナル植物者ホカ
 ホンタスノ容姿艶冶ナルヲ眷戀シ遂ニ其女ヲ
 迎ヘ我妻トナス且ツ彼ヲシテ我カ聖教ニ改宗
 セシム其父ポーハタン之ヲ聞キ大ニ喜ビ直ニ
 我ト和シ特ニ懇親ヲナス尔後三年ヲ経テホカ
 ホンタス、ロルフニ随フテ我都府倫敦ニ來ル時
 ニ都下ノ人民殊ニ親懇ヲ以テ彼ヲ待遇シ為ニ
 家室ヲ設ク且ツ貴人ノ彼ヲ訪フモノ甚多シ曰

友ジョンスニスモ亦來訪セリ而メ各ホカホシ
タスノ動作貞正ナルヲ感賞ス時ニホカホシ
ス英國ノ氣候酷寒ナルニ堪ヘス其本國ニ歸ラ
ント欲ス然ルニ疾病ニ侵サレ終ニ我英國ニテ
客死ス享年二十二年ニシテ一子ヲ遺ス先是ホ
カホシタスノ英國ニ來シトスル時其父ホーハ
タシ英國ノ形勢及其人負ヲ知ラシ為メ一武夫
ヲシテ隨行セシム而シテ此ノ武夫英都ニ着セ
ント欲スル時直ニ一ノ長棒ヲ造リ以テ己レカ
目撃セシ人負ヲ此長棒ニ刻セント欲ス然ルニ

其數過多ニシテ一々刻スル能ハス故ニホカホ
シタス死後本國ニ歸リホーハタン英都ノ形勢
及ヒ其人負ヲ問ヒシ時夫ノ武夫答ヘテ曰ク汝
キ英都ノ人負ヲ知ント欲セハ頃ラク上天ノ星
樹木ノ葉及ヒ海濱ノ沙ヲ數フベシト斯ク答テ
以テ英國人負ノ實計ス可カラザルヲ示シタリ
ト云フ

第九章

ニウヨルクノ濫觴

夫レ蘭人ノニウヨルクヲ發見シ爰ニ移住スル

ヤ其原由ヲ按スルニ蘭人嘗テ東印度ト盛大ニ
 貿易ヲ為セリ故ニ彼等以為ラク米國ノ北方ニ
 於テ大東海ヨリ大平海ヘ船路ヲ發明セハ東印
 度ヘノ航海大ニ日數ヲ減シ且貿易ノ便ヲ十廿
 ント時ニ一千五百二十四年新タニ舟楫ヲ儀シ
 ベルラガニイラ船監トナシ其方向ヘ送りタリ
 然リ而ヌベルラガニイハニウヨルク港近隣ノ
 小島ニ達シタリ然レ氏逆風ニ會シ其他討索ス
 ル能ハス空シク帰帆ヲナセリ尔後敢テ再行ヲ
 謀ルモノ無ク荏苒年月ヲ消ス爰ニ一千六百九

年航海者ヘンリーホドソンヲシテ再ヒ其方向
 へ進マシム而シテホドソンハメイン合衆國ノ
 ノ海岸ヨリピイルジニヤニ到ルマテ航進スト
 虫モ一ノ船路ヲ發明セス再ヒメインニ帰ラン
 ト欲ス尚才来路ノ海岸ヲ嚴密ニ討索シ漸クニ
 ウゼルセイ及ヒロニグアイランドノ間ニ在ル
 海灣ヲ發明ス是レ即チホドソン蓋シホトソン
 故ヲ以テ斯ク河ナリ然リ而メ此灣ノ原頭ヘ沂
 名ケラレタリ流スル二三里許遂ニ今日ノニウヨルク港ニ達
 レタリ然レ氏此ノ時未タニウヨルクノ名称ヲ

有マス且他ノ名ヲモ称セス此時ヨリシテ此地
ヲ目シテマンハタント呼フ蓋シマンハタニナ
ル称呼ハ土人ノ語ニシテ英語ニ譯スルハ所
謂酒宴ノ地ト云フ義ナリ初メホドリンノ這ノ
江河ニ入ラントスルヤ土人ノ漁獵スル者遙ニ
我カ舩ヲ望ンテ大ニ驚異シ且怪ニ且恐レ各近
隣ニ趨告シ其人種ヲ招集シ斯ク怪異ノ近クヲ
注意セリ斯テ我船稍近ツクヲ見テ或者以為ラ
ク是レ水上ニ於ケル家屋ナラント又或者以為
ラク是レ必ス大魚ナラント其説紛々一定セス

遂ニ相議シテ大舟ナリトス而シテ其船監紅色
ノ服ヲ着クルヲ見テ以為ラク是必ス上帝ノ我
地ニ來臨スルナラント爰ニ於テ彼等燕宴ヲ設
ケ各族ノ酋長跳躍シ以テ我舟ヲ候ツ時ニ我舩
岸ニ達スヘンリーホドリン紅衣ヲ服シ衆ヲ隨
ヘ堂カトシテ上陸ス曰リテ土人ホドリンヲ見
テ愈ヨ尊崇シ各叩頭シテ環坐ヲナス時ニホド
リン砂糖ヲ以テ製シタル燒酒ノ一罍ヲ出シ自
ラ一杯ヲ傾ク而メ其杯ヲ舉ケ最モ已レニ接近
シタル酋長ニ授ク然レモ土人ハ嘗テ燒酒ノ何

物タルヲ知ラス皆其臭ヲ聞テ破膽シ散テ之ヲ
飲ム者無ク相互ニ手送シ傳ヘテ末坐ニ到ル其
酋長以為ラク奉衆之ヲ飲マシテ徒ニ上帝ヘ返
呈セハ上帝必ス譴怒ヲ發セシ縱ヒ之ヲ飲テ多
少ノ苦惱ヲ受クルモ寧口上帝ノ譴責ニ勝ラン
ヤト遂ニ意ヲ決シテ一嚙之ヲ尽ス即チ心神恍
惚トシテ身物外ニ飛揚スルカ如ク覺ヘス坐右
ニ横倒シ熟睡麁々タリ爰ニ於テ餘衆大ニ驚キ
其醉倒トルヲ知ラス彼レ已ニ中死セリトナス
少焉ニテ彼レ蘇息シ起テ衆ニ謝ス衆再ヒ驚キ

其傷害ナク回復セシヲ賀シ相共ニ其臥中ノ状
態ヲ問フ彼答ヘテ曰ク吾レ斯ノ世界ニ在リシヨ
リ未タ曾テ斯ク愉快ヲ得タルトナシト衆之ヲ
聞キ始メテ其燒酒ヲ飲シテ欲ス曰テ各沈醉
シ歡ヲ尽シテ其宴ヲ終ヘタリ尔後此地ヲ目シ
テ嚙宴ノ地トナス實ニ故アルナリ明日ホドソ
ニハ斯ク親懇ヲナセシ土人ニ分與スルニ珠玉
斧頭及ヒ手套ヲ以テス土人大ニ此賜ヲ喜ブ然
レ氏他日其地ニ往キ土人ヲ見ルニ以前ノ贈物
何ノ用タルヲ知ラス其手套ニ煙草ヲ盛リ各腰

間ニ佩シ且ツ重大ノ斧頭ヲ首飾トナシ各頸間ニ懸ク續ヒテホドソン各處ノ人種ト友誼ヲ結ビ遂ニ歐洲ニ帰帆シテ其發明ノ功績ヲ奏ス明年又ホドソン東印度ヘノ船路ヲ發明セント欲シテ北方ニ航シ大灣ヲ発見ス即チ之ヲ名クルニ已レノ名ヲ以セリ時ニ水夫等艱難勤勞ニ堪エル能ハス遂ニホドソンニ叛キ其一子及ヒ他八人ヲシテ小舟ニ分載シ此灣ニ遺シテ归来セリホドソン爰ニ於テ進退スル自由ナラス其素志ヲ遂クル能ハス且ツ其地方ノ酷寒ナルニ堪

ヘスシテ終ニ此地ニ於テ凍死ス此後荷蘭ノ商人ホドソンノ發明セシ地ニ航シ土人ト貿易ヲ始メ珠玉斧鉞及ヒ小刀等ヲ以テ彼ノ獺獺及ヒ他ノ毛皮ヲ得ルト多シ之ヲ本國ニ賣ラシ大ニ利益ヲ得タリ曰テ各處ニ數若ヲ築キ以テ此商人ヲ守護ス一千六百十四年ニ於テマンハタンアイランド今日ノニニ一若ヲ築キタリ後幾何モナクシテ這ノ若傍ニ於テ小舎ヲ營ニ是ノ地ヲ名ケテニウアマストルタムト云下リ是レ此ヲ以テニウヨルク都府ノ基礎トナス而メ近接

ノ地ヲ惣稱シテニウニイグルランド云フ尔後
 愈ヨ益ス土人ト貿易ヲ盛ニナセリ然レテ一千
 六百二十一年ニ至リテ始テ此商人等各一族ヲ
 率ビテ爰ニ移住セリ夫レ蘭人ハ資性正直ナル
 ヲ以テ敢テ其地ヲ押領セスマンハタンアイラ
 ンドノ全地ヲ得シカ為メ二十四弗ヲ以テ土人
 ニ贖フタリト云フ九今日ニ至テハ其價ト數百
 萬ノ貴キニ至リ確乎トシテ移動ス可ラス

第十章

英國ノリタン宗徒ノ移住及新イングラ

インドノ濫觴

一千六百二十年英國ノ「フリタン」宗徒ニウイン
 クランドニ於テ始テ永久不動ノ殖民ヲ創ム此
 地ハメイン及ヒマスサキヨセエツ海岸ノ北方
 ニレテ先是船將ジョン、スミスノ發見セシ地方
 ナリ夫レ此ノ宗徒ノ米國ニ移住スル其来由ヲ
 按スルニ「フリタン」宗ハ原英國普通ノ宗教ト其
 開祖一ナルト雖モ末流分派シテ遂ニ此一個ノ
 宗教ヲ區別ス故ニ遵奉ノ法、拜禮ノ式セ自ラ異
 ナルヲ以テ彼此敵視シ動モスレハ此宗徒ヲ殺

我レ最ノテ之ヲ逼滅ヒント欲ス故ニ其徒積憤
 ニ堪ヘス夫ノ米國ニ移住シ擅ニ我カ宗教ヲ奉
 セント欲レ遂ニ此舉ヲナセリ時ニ一百ノ宗徒
 謀ヲ合セ「イフロウエル」ナル一個ノ船ヲ浮ヘ
 ホドソン河ノ近隣ニ於テ居ヲ占メント欲シ我
 カ父母ノ國ヲ出帆ス然レモ不幸ニシテ暴風大
 雨ニ遮隔サレ遂ニホドソン河へ進船スル能ハ
 スマスマスサチヨノセエツ海岸ニ於ルケエプユツド
 各岬ノニ漂着ス然ルニ此地ハ酷寒不毛ナルヲ以
 テ其徒ヲ分チ此沿海居ル可キノ地ヲ討索セシ

ム然レモ唯累々タル墳墓及ヒ寥々タル残骸ノ
 ニニシテ生命ヲ仰ク可キモノ更ニ見ルナシ
 且ツ氷雪地ニ滿チ寒威層ニ透ル故ヲ以テ其徒
 凍死スル者勘カラス爰ニ於テ魁首タル者數人
 小舟ニ棹レ以テ他ノ上陸ス可キ善地ヲ擇ム此
 時ニ當テ寒威愈ヨ甚タシク水煙人ノ衣服ニ氷
 着シ光輝ヲ發シテ恰モ鋼鐵ヲ以テ製シタル甲
 冑、如シ一日或地ニ上陸ス然ルニ其土人群集
 鼓噪シテ矢ヲ放シ我止ヲ得シテ擄ヲ所ノ銃砲
 ヲ發ス土人其響キニ驚キ直ニ逃匿ス爰ニ於テ

又舟ヲ發ス時ニ暴風ニ會シ殆レト其舟破壊セ
ントス漸クマサチヨセエツ海岸ノ東方ニア
ル一島ニ達シ此難ヲ避クルヲ得タリ偶此地ノ
景况ヲ見ルニ豊饒ニシテ居ヲ移スニ足レリ曰
リテ爰ニ上陸セント欲シケエヲコツト岬ニ告
ケヨイフロウエルル船ニ残リシ宗徒ヲ迎ヘタリ
時ニ一千六百二十年第十二月廿一日ナリ此地
ヲ名ケテピリモースト云フ爰ニ於テ各家屋ヲ
造營ス時ニ衆殆レド寒冷ニ侵サレ同月ニ於テ
六人病死レ社徒ノ者僅ニ七人ナリ斯ク困難ニ

迫ルト雖モ心神自若各生命ヲ以テ一ニ上帝ニ
帰シ敢テ勞苦ヲ厭ハサリキステ明年正月其徒
ノ二人フロウニ及ヒグロドメンナル者我家屋
ヲ脩葺セシ為メ他ニ行テ茅茨ヲ求ム時ニ叢林
深藪ヲ跋躑シ殆レト東西ヲ失シ歸路ヲ得ス然
ルニ日落キ天暗黒ニシテ紛々雪ヲ飛ス是ニ於
テ兩人更ニ進退スル能ハス漸ク窟窟ノ下ニ倚
リ以テ日ノ出ルヲ候ツ少焉アツテ寒風林中ニ
叫ヒ漸瀝声アリ兩人恐懼シテ以為ラク是レ飢
獅ノ吼ルナラント即チ其害ヲ避ニカ為メ馳テ

林木ニ攀ル蓋シ彼等米國ニ獅子ノアラサルヲ
和ラザレハナリ時ニ寒風衣ヲ透シ凜烈堪ユ可
ラス彼等以為ラク吾カ身体ヲ運動スルニ非サ
レハ必ス凍死ス可シト速ニ樹ヲ下リ各明且ニ
至ルマテ馳驅奔走シテ自ラ温ヲ取ル然リ而メ
天明ニ達シ再ビ帰路ヲ索ムルト雖モ得ス終日
各所ヲ彷徨シ漸ク其夕プリモウスニ達シタリ
斯テプリモウスニ在ル者前夜ヨリ二人ノ帰ラ
ガルヲ驚キ百方探索スト虫モ相見ヘス衆以
為ラク彼等果シテ土人ノ為メニ殺サレシカ又

ハ疆外へ放逐サレシナラント各愁歎シテ吾家
ニ帰ル然ルニ令二人ノ無事ニシテ到ルヲ見テ
大ニ悦ビ如何シテカ其遅々タルノ所以ヲ問フ
尔後兩人ハ此阨ヲ終身忘レザリシト云フ斯ク
プリモウスノ宗徒艱難幼勞シテ生ヲ營ムト虫
モ其地_ニ寒ニシテ病者絶ユルナク第四月ニ
至ル迄其徒過半ハ死ニ赴タリ然レモ此時ヨリ
氣候漸ク温暖ニシテ軟風吾體ニ宜シク花遠近
ニ開テ病餘ノ眼ヲ慰メ鳥林樾ニ轉メ羸殘ノ耳
ヲ快クス爰ニ於テ我徒始テ蘇生ノ思ヲナセリ

米國史 卷之五 三

然リ而メ客冬我地ヲ去ル_レ遠カラス屢焰烟ノ
縷起スルヲ見ル因テ以為ラク是必ス土人ノ居
住スル所ナラント今即チ氣候ノ温暖ナルニ乘
シ路ヲ求テ其處ニ到リ土人ト友誼ヲ結ニ為メ
發程ス然リ而メ其住所ニ到ルト雖モ其成功ナ
ク帰リ來ル曾テ一日サモセツトナル土人來テ
我ヲ訪ヒ曰ク汝等能ク爰ニ來レリト其言ヲ聞
ニ尽ク我カ英ノ邦言ナリ因テ我衆驚キ如何シ
テカ我邦言ヲ解シ得ルヤト其土人ニ問フ土人
曰ク先是或ル航海者アリ此近傍ニ到レリ吾レ

其人ヨリ學ヒ得タリト云フ且其土人語テ曰ク
吾即チハウハンパゴノ一クナル人種ノ一人ニ
シテ爰ヲ去ル_レ九ノ五日程ノ地ニ居住スト又
曰ク幸ニシテ當今此ノ地ヲ領スル者ナシ何ト
ナレハ數年前此地ニ居住セシ土人多クハ時疫
ニテ死シ餘ハ悉ク敵ノ為メニ殺戮サレタリシ
ト云々然リ而メ爰ニ一ノ奇談アリ「フリタン宗
徒ノ爰ニ移住セサル數年前一個ノ佛船ケエ「
コツドノ海岸ニ着ス時ニ其土人暴惡殘忍ニシ
テ殆ント船中ノ佛人ヲ殺戮ス漸ク其一人死ヲ

免レ侍層トナレリ一日侍層土人ニ語テ曰ク汝
等我カ國人ヲ殺戮セシニ曰テ上帝大ニ譴怒ヲ
發シ汝等ニ嚴罰ヲ蒙ラセ且ツ其所有ノ地ヲ他
人ニ與ヘントスト土人之ヲ聞キ大ニ笑フテ曰
ク汝如何シテカ其事ヲ知得ルヤ縱令其言ノ如
クナルモ上帝焉ノ我輩ノ如キ驍勇ノ入族ヲ亡
シ得可シヤ彼レ又答テ曰ク上帝冥々ノ禍福ヲ
掌ル故ニ其賞罰ヲ行フヤ太夕容易ナリ又何ソ
汝等ノ如キ驍勇ヲ恐レニヤトナリ此後直ニ疫
疾流行シ之カ為メ死亡スル者太夕多シ絶カ其

傳漆ヲ免ル者ト雖モ尽ク歎又ニ罹リ其命ヲ墮
シタリ故ニ「アリタン」宗徒此地ニ來リ多ク土人
ノ墳墓ヲ見シハ實ニ之ヲ以テナリ我宗徒此
モセツトヲ待過スルヤ甚ク懇親ナリ後直ニ其
酋長マスサソイトナル者來リテ又我ヲ訪フ我
其酋長ナルヲ以テ太夕彼ヲ尊重シ且ツ其去ル
ニ及ンテ二個ノ小刀及ヒ銅製ノ鈎索ヲ贈ル且
燒酒乾餅及ヒ牛酪ヲ以テ彼ノ弟ニ與フ故ニ彼
ト友誼ヲ結フ太夕厚シ尔後酋長ノ來訪ヲ謝セ
シカ為メ我徒ノ二人ヲ遣シ彼ヲ訪フ適マ酋長

二卧シ其苦腦甚シ然ルニ医ノ之ヲ療治スルヤ
 甚タ奇異ニシテ且怪シ医其病床ニ傍テ大声ヲ
 發シ或ハ跳躍シ以テ其病ヲ治セントス我二人
 此體ヲ見テ即チ其医ヲ退ケ彼ニ與フルニ一ノ
 藥ヲ以テス彼之ヲ服シ果シテ快氣ヲ得タリ曰
 テ土人大ニ悦ビ益ス懇親ヲナス此時ニ當リマ
 ス甘ソイトトヲ歎視セシ一ノ人種アリ我ノマス
 甘ソイトト親睦ナルヲ竊ニ嫉ニ即チ發響蛇
ハ尋常ノ蛇形ニシテ唯尾ヲ以テ地或ハ木石ノ
ヲ奇ツクハ其響キ遙ニ聞フ故ニ此名アリ
 皮ヲ以テ矢ノ一束ヲ卷キ之ヲ送り來ル是レ即

千土人挑戰ノ信ナリ因テ我守令ブラドフルド
 大膽ニシテ之ヲ恐レヌ即チ其蛇皮ニ彈藥及ヒ
 銃丸ヲ裏ニ之ヲ返送ス土人此返報ヲ見テ大ニ
 怪ニ是レ必ス妖魔蠱惑ノ物ナラント大ニ我ヲ
 驚怖シ敢テ攻撃ヲナス能ハス蓋シ彼レ未タ銃
 砲ヲ知ラサレハナリ我レ之ヲ察セス我カ地方
 ヲ環リ柵ヲ設ケ以テ敵ノ來撃ヲ候ツ此後數月
 間我徒糧食ニ乏シク殆ト餓死セントス何トナ
 ナレハ耕作ヲナシ各自ヲ給スル能ハス又漁獵
 セントスルモ網罟舟楫ノアルヲナケレハナリ

一千六百二十二年本國ノ高船糧食ヲ積ニニウ
 イニグラントニ到ル時ニ其價太々貴シ然レ
 我カ急旦夕ニ迫ルヲ以テ之ヲ買得ヘ漸ク餘命
 ヲ驚タリ斯ニ我徒此ノ地ニ移住ノ後既ニ二年
 ヲ経ルト虫モ尚オタベニシテ旦夕ノ食ヲ供ス
 ル能ハス漸ニシテ其日ノ腹ヲ充シ日夕困々ト
 シテ我寢所ニ帰ル故ニ本國ヨリ同派ノ徒適々
 爰ニ到着スルモ徒ニ一個ノ魚蝦一團ノ魚肉及
 ヒ一杯ノ水ノ外更ニ供スルモノナシ尔後二三
 年ヲ経テ漸ク田畝ヲ闢キ黍黍ヲ種ヘ各艱難勞

苦シテ始メテ飢餓ノ患ヲ免ル斯テ同派ノ宗徒
 陸續トシテ本國ヨリ移住シ一千六百三十年其
 全負殆ント三百人ノ多キニ至ル是ヨリシテ
 リモースハ漸々繁栄ニ赴タリ

第十一章

サレム等各地ノ濫觴

先是英國ニ在ル「プリタン」宗徒全ク米國ニ移住
 シ各難ヲ避ケ自由ニ其宗教ヲ遵奉セント欲ス
 時ニプリモースノ同徒其地ノ西北ニ當リマス
 甘ネヨセエツ灣ヲ境トスル地方ヲ本國ノ徒ニ

與ヘタリ爰ニ於テ本國ノ徒ジヨシ、エニデイコ
 ツトヲシテ一百ノ宗徒ヲ替セシメ米國ヘ出帆
 セシメタリ時ニ一千六百二十八年ナリ此徒即
 チサレムニ於テ居住ス一千六百三十年許多ノ
 徒又到着シカンブリシ及ヒボストン今日ノ威
 ストン港則チ之ヲ以テ濫觴トナス等ノ市街ヲ創造シ爰ニ獨立
 ノ政府ヲ立テジヨシウエイスロプヲシテ之カ
 搃替タラシム然レモ此徒モ初メ酷寒及ヒ飢餓
 ノ苦患ヲ受ケシカ後チ直ニ繁栄シ機械ヲ設ケ
 製造ノ便ヲナシ且又他ノ住民ト貿易ヲ開ク時

ニサレムニ於ル説法者ローゲル、ウ井ルリアム
 ナル者アリ同シク「アリタ」ニ宗ニシテ其説少シ
 ク異ナリ曰テ他人ヲシテ悉ク己レノ所説ニ帰
 依セシメントス然レモ住民之ニ服セス相共ニ
 評議シ遂ニ彼ヲ本國ヘ送り帰サント欲ス口
 ゲルウ井ルリアム竊ニ之ヲ聞キ速ニサレムヲ
 出奔ス然レモ尚オ己レノ説ヲ固守シ其法ヲシ
 テ世ニ行ハレシメント「アリタ」欲シ荒莫無邊ノ地ヲ
 遍歴シ一個ノ人境ヲ得テ身ヲ託セントス故ニ
 夜雪ニ乗スハモ安眠スルニ所ナク食セント欲

スルニ魚肉麵麩ナシ斯ク艱難スル一數月漸ク
一ノ村落ニ達ス然ルニ其土人彼ヲ遇スル甚々
厚シ爰ニ於テローゲル、ウ井ルリアム其土人ヨ
リナルラガンセエツ灣ニ在ル一島ノ一部ヲ購
ヒ已レノ徒五人ト是ニ居住シ以為ラク是レ必
ス上帝ノ恩惠ナラント故ニ此地ヲ名ケテプロ
ビデンスト云フ蓋シ「プロビテースト」云フハ上
帝ノ擁護ナリシト云フ義ナリ曰テ此說法者ヲ
以テ此島ノ創祖トナス後幾クモナクマサチ
ヨセエツニ於ル「プロリタニ」宗徒ト不和ノ徒アリ

土人ヨリ其近隣ノ島ヲ買ヒ之ニ移住シ名ケテ
ロードアイランドト云フ此島ノ南岸ニ於テ石
ノ巨塔アリ其状チ奇異ニシテ太古色アリ何
人ノ之ヲ建テシヤ土人ニ問フニ曾テ知ル者ナ
シ後其近傍ニニウポルトナル市街ヲ立ツ即チ
今日ノロード島ノ都府是ナリ

第十二章

ニウハンブセイルノ濫觴

一千六百二十二年英人ソル、フエルジナンドコ
ルテス及ヒジヨシ、ソルナル者令ノニウハン

プセイルナル地ヲ得元翌年此地ニ徒ヲ率ヒテ
移住シ交易漁獵ノ為メニ諸港ヲ開キタリ而シテ
好シテマスサキヨセエツノ管轄ヲ受ケ其殖民
ノ一部トナレリ然レモ後四十年ヲ經テ英國王
ノ命ニ從ヒ分レテ獨立一洲トナリタリ

第十三章

コニ子クキカツトノ濫觴及ヘコトドノ
戦争

夫レコニ子クキカツト蓋シ此名ハ土人ノ語ニ
シテ長河ト云フ義ナリ
ハ一千六百十四年ニウアムストルダムニ在ル

蘭人ノ發明セシ河ニシテ即チ此國ヲコニ子ク
チカツトト稱ス然リ而シテ蘭人其頭リニ於テ一
砦ヲ築キ土人ト貿易ヲ為シ大ニ利益ヲ得タリ
然レモブリモース及ヒマスサキヨセエツノ住
民此河水ハ魚ヲ以テ充チ其岸頭ハ獮獺ヲ以テ
満ツルト聞キ各移住ノ念ヲ萌ス一千六百三十
三年船將ウサルリアムフォルムスナル者其近隣
ノ溪間ニ移住ヤント欲シ家屋ノ棟柱等ヲ積ミ
此河ヲ過リ蘭人ノ砦傍ニ近ツク時ニ其商人我
小舟ヲ見テ大ニ驚キ斯ノ豊饒ノ地方ヲ他人ニ

削奪サレシテ恐レ我舟ヲ呼テ叱メ曰ク汝ヲ止レ夫レ何處ニカ行ク若シ止マラサレハ我レ汝ニ砲發セント云々然レ尺ウ井ルリアムフルハス敢テ之ヲ顧ミス順風ニ乘レテ此岩ヲ過ク又上ル一二三里其河畔ニ於テ居ヲ定ム即チ今日ノウイインドソルノ地是ナリ是ノ新説遂ニ英國ニ達ス時ニ英國王我カ所有ニ非スト虽モ此地ヲ以テウラルウ井クノ候ニ與ヘタリ然リ而メ候又之ヲ他ノ貴人ニ讓與ス爰ニ於テ移住ノ民ヲ送リ其地ニ居ラシメントス然レ尺此民其

河口ニ上陸シ爰ニ一岩ヲ築キ名ケテセイブルト云フ後二年マスサチヨセエツノ或ル者是ニ移住セント欲シ家畜ヲ我前頭ニ放チ深林ヲ穿チ沼澤ヲ涉リ漸ク其河頭ニ達ス然レ尺既ニ河水凍リ寒冷甚シク家畜多クハ凍死シ糧食乏シク故ヲ以テ大ニ苦難ヲ受ケタリ明年夏ホストンノ住民幾ンド一百人コン子クチカツトニ向フテ發程ス其人皆牛乳ヲ以テ食ニ充テテ十日ニシテ漸ク此地ニ達ス是レ今日ノ如ク鉄道ヲ架シ炭車ニシテ走ルハ僅ニ二三字間ノ

道程ナリ彼等土人ヨリ地ヲ贖ヒハートフルト
 及ヒウエヅルスフイルド等ノ市街ヲ建テタリ
 時ニ此國ノ東南デームズ何ノ近傍ニ於テペコ
 イドナル一ノ人種アリ彼其狩獵ノ地ニ於テ白
 人ノ繁殖スルヲ見テ竊ニ驚怖シ稍嫌疑ノ念ヲ
 起セリ故ヲ以テ遂ニ争端ヲ開クニ至ル一日我
 商人此河中ニ於テ一個ノ小舟ヲ見ル以為ラク
 是レ即チ我徒ナルドハムニ属セシ舟ナラント
 然レ氏土人ノ多ク此舟中ニ在ルヲ訝リ稍佇立
 シテ之ヲ望ム時ニ商人唯童子二人ヲ伴フノ三

ナリ然レ氏此多クノ土人ヲ畏レス其舟ニ到リ
 其故ヲ問ント欲ス然リ而メ其舟ニ近ク片夫ノ
 土人各狼狽シテ身ヲ水中ニ投シ游泳ヲ以テ各
 逃遁ス曰テ商人其舟中ニ入り其跡ヲ搜索ス果
 シテ魚網ノ下ヨリアルドハムノ死屍寸断ニサ
 レ流血淋漓タルヲ見ルニワイニグランドノ住
 民之ヲ聞キ大ニ怒リ即チアルドハムノ仇ヲ復
 セシ為メエンデカツトヲシテ兵士ヲ替セシメ
 上人ノ村落ニ向フテ進軍セシム土人之ヲ聞キ
 大ニ恐レ絶ニ身ヲ脱メ逃匿ス我兵其家屋及ヒ

田圃ニ火ヲ放チ悉ク之ヲ焼亡ス土人此暴挙ヲ怒リ其怨ミヲ發ヒレカ為メ即チ部署分隊シテ我ヲ侵撃ス我其不虞ヲ讓ハレ一敗支ル能ハス爰ニ於テ土人我カ老少婦女トナク悉ク其腦膜ヲ剥キ残忍暴惡ヲ極メタリ且又之ニ乘シテ悉ク他ノ殖民ヲ撃破セント欲シナルヲガニセエツナル人種ヲ已レニ左祖セシメント謀ルボストンノ住民之ヲ聞キ大ニ恐レ先是其地ヲ放逐セシローゲルウ井ルリアムハ曾テナルヲガニセエツニ罷遇サレシ其旧友タルヲ以テ書ヲ送

リテ彼ヲ召還シ為メニナルヲガニセエツニ説カシメントス曰テローゲルウ井ルリアム小舟ヲ浮ヘ彼ニ達セント欲ス時ニ其途中暴風ニ會シ漸クナルヲカニセエツノ村落ニ達スルヲ得ル適マペコルドノ酋長其村落ニ来リ已レノ徒黨ニ與サン^トヲ説クニ會ス之ニ曰テ其土人躊躇スル^ト數日遂ニペコルドニ與セス益ス英人ト友誼ヲ固フス是ニ依テ我民ペコルトニ向テ進軍シ未明ニ其砦ニ達シ直ニ之ヲ襲撃シ其村落ニ放火ス且四面ヨリ之ヲ圍ニ土人ノ火中

ヨリ遁レ出ルヲ闕ヒ男女老少トナク僅ニ一字
間ニシテ其斬殺六百人ナリ明日ペコードノ他
若ニ在ル者已レカ軍敗績スト聞キ若ヲ出テ死
ヲ決シテ憤戦ス然レ尺我軍又勝利ヲ得遂ニ其
族ヲ滅亡セシム時ニ一千六百三十七年ナリ明
年本國ノ「プリタ」宗徒又米國ニ移住シ土人ヨ
リ地ヲ贖ヒニウヘグニ市街ヲ建テ政府ヲ設ケ
其法律尽ク聖經ニ據ル此殖民速ニ繁殖シ一千
六百四十三年ニ至テ其所有五十村ニ超ユ時ニ
土人及ヒ佛蘭ノ殖民ト謀ヲ合セ我ヲ併吞セン

ト欲シ屢我ヲ脅ス曰テ此殖民ト謀ヲ合セマス
「サキヨセエツ」及ヒ「コン子クチカット」ニ於ル我
本國ノ殖民ト同盟ヲナシ互ニ危急ヲ援ク之ヲ
名ケテ合後殖民ト云フ此盟誓ヲ守ル殆ド四十
年故ニ其益亦奉テ數ヲ可カラス

第十四章

メリトランドノ濫觴

一千六百三十二年英國王ゼームス此地ヲ貴臣
「ジョルジ、カルミルト」ニ與ヘタリ爰ニ於テ「ジョ
ルジ、カルミルト」ハ不羈獨立ノ殖民所ヲ開基セ

ント欲ス故ニ英國政府ヨリ其殖民ニ賦稅ヲ免
 レ且其事務ニ関涉セザルノ允可ヲ得タリ然リ
 而メジョルジカルベルトハ其宿志ヲ遂ル能ハ
 ス中道ニシテ死ス然レモ其子ニセルカルベル
 トナル者父ノ遺業ヲ受ケ其志ヲ継カント欲シ
 一千六百三十四年我本國ヨリ移住ノ民二百人
 ヲ送りタリ此等ハピルジニヤトメリーランド
 境界ナルホトマツク河ヲ遡リ土人ヨリ或ル間
 地ヲ購ヒ爰ニ宇居シ村聚ヲナス斯テ近隣ノ土
 人ト友誼ヲ結ハン為メ彼等ニ與フルニ小刀及

ヒ斧鋤ヲ以テス土人此贈物ニ酬ヒント欲シ即
 千其土産ノ麵粉ヲ以テ蒸餅及ヒ菓子ヲ製作ス
 ルノ方法ヲ教ヘ相互ニ懇親ヲナセリ曾テ斯民
 ノ始メテ爰ニ着スルヤ時シモ春暖ノ候ニシテ
 動作意ニ適シ且ピルジニヤノ住民ヨリ救助ヲ
 受クルヲ以テ他ノ殖民ノ如キ艱難勞苦ヲナサ
 ス特ニ獨立自由ナルヲ以テ村落日ニ繁栄ス故
 ニ本國ヨリ許多ノ民爰ニ移住ス先是此メリー
 ランドノ境内ニ於テ交易ノ為メ一砦ヲ築キレ
 者アリ其名ヲクレイボルト云フ其人タルヤ

驕傲ニシテ屢ハ住民ヲ煽動シ謀叛ヲ為サント
ス然レ氏随テ之ヲ鎮壓シ乱ニ及ホサス唯之ヲ
以テ此殖民ノ難トス後須臾ニシテ聚落街衢ヲ
ナス名ケテバルチモールト云フ是レ即チメリ
ーランドノ都府ナリ

第十五章

テラウエルノ濫觴

一千六百三十八年スエーデン及ビフィンラン
ド兩國共ニ歐洲兩國ノ人民各新世界ニ於テ未
タ一個ノ發明ヲ為サスト虽モ今ク其地ニ移住

レ幸福ヲ得ント欲シ各徒ヲ結シテ出帆シ即チ
テラウエル灣ノ海岸ニ上陸ス斯テハウエト人
ハ土人ヨリ地ヲ購シ之ヲ我カ居住ノ地トナシ
名ケテ「ウスエー」ト云フ而シテ數岩ヲ築キ
他ノ來寇ヲ防ク且其國人ト爰ニ移住スル者又
甚タ多シ先是數年ニウニイリランドニ居住
スル蘭人嘗テ此地ニ居住ヲナス時ニ土人ト爭
端ヲ聞キ遂ニ土人ノ為メ殺戮サレ或ハ爰ヲ驅
逐サレ更ニ一人モ此地ニ殘ル者ナシ然ルニ當
今此地ニ移住ノ人アルヲ見テ大ニ怒リ嘗テ已

レノ所有タルヲ以テ再ヒ之ヲ復セントス然レ
凡瑞人之ヲ肯セス曰テ一大争闘ヲ起ス遂ニ一
千六百五十五年瑞人ノ敗績ヲ以テ此地再ヒ蘭
人ノ所有トナル爰ニ於テ蘭人其地ヲ改称シテ
「デラウエル」ト云フ是時ヨリニウニイソルラン
トノ蘭人交易ヲ盛ニシ大ニ繁榮ヲナス然レ凡
一時土人ト釁アリ干戈ヲ交ヘテ安カラズ是レ
全ク其守令ノ猛惡殘忍ナルヲ以テ之ヲ招ケル
ナリ後終カニシテ「スチベサント」ナル者又此守
令トナル夫レ此人タルヤ大膽驍勇ニシテ屢ハ

戦争ヲナシ既ニ已レノ一足ヲ失ス是ノ時ニ當
リテ英ノ国王蘭人ノ居住スルニウアマスト
ラムノ全地ヲ奪フ之ヲ已レノ弟ヨルク公ニ與
フ蓋シ此地ヲ固ヨリ蘭人ノ所有ニシテ英王之
ヲ私スルノ権ナキヲ勿論ナリ故ニ之ヲ押領セ
ンカ為メ戦艦ヲ附シ送りタリ然リ而メ英人ニ
ウアマストラムノ近港ニ到リ一簡ヲ其守令
スチベサントニ投シ謂ラク我今日ヨリ此地ヲ
押領ス汝ヲ我ニ抗セス速ニ降服セヨトスチベ
サント之ヲ讀ミ大ニ憤激シ其来簡ヲ寸々ニ裂

キ砲隊ヲ備ヘ已レノ位置ヲ定メ以テ我カ逆ガ
ヲ待ツ時ニニウアムストルダムノ住民群集ニ
テスチベサントニ謂テ曰ク汝ナ英人ニ抗シ戰
闘ヲ為サント欲セハ汝チ之ヲ為セ我等ハ汝ニ
与カセス速ニ英人ニ降服セント云々爰ニ於テ
スチベサント侯令大膽驍勇ナルモ更ニ左祖ノ
人ナキヲ以テ止ヲ得スレテ來降ス故ニ一戰ニ
及ハシテ蘭人ノ所有悉ク我カ英國ノ版圖ニ入
ル實ニ一千六百六十四年ナリ斯クノ如ク蘭人
其守令ニ叛キレハ是レ暴政ヲ行ヒ其住民ヲ虐

セシ故ナリ抑モ此時ニ於テ英人ハメインヨリ
フロリダニ至ル迄大東洋ノ海岸ヲ領レヨル
公ノ名ヲ取リ此地ヲ名ケテ「ニウヨルク」ト云ヘ
リ

第十六章

ニウセルセイノ濫觴

既ニ前章ニ載セシ如ク蘭ノ商人ホドソン河ノ
西方ニ於テ數個ノ村落ヲ建テ爰ニ移住セリ然
ルニ英ノ王族ヨルク公我カ王命ヲ以テ其地ヲ
押領シ而メ公又已レノ友二人ニ此地ヲ讓与セ

リ爰ニ於テ其友人此地ヲ名ケテニウゼルセイ
トス然リ而メ此地ニ移住セシムルノ欲スルノ人民
ニ自主自由ノ權ヲ与フ目之此地ハ速ニ繁殖セ
リ

第十七章

キングビリップノ役

夫レペコードノ役後土人ト平和ナルヲ始ト數
年ナリ爰ニ一千六百七十五年土人ト又タ一個
ノ争端ヲ開ク此戦争ヲ名ケテキングビリップ
ノ役ト云フ抑モ此役ノ起リヤマスサキヨセエ

ツニ居住スル白人ヲ悉ク撃破シ已レ其地ヲ収
奪セントノ企テナリ夫レヒリップナル者ハ英
人ノ親友ワシバゴノークスノ酋長マスサソイ
トノ弟二子ナリ是ノ時ニ當リテ既ニ其長兄ニ
嗣キ此族ノ酋長ニシテナルラガンセエツ灣ノ
東令ノロッドアイランドニ居住ス時ニ白人ノ
聚落漸々繁殖シ昔日狩獵ノ地モ今ハ變シテ市
街トナリ森林藪澤ハ尽ク良田佳畝トナル彼等
之ヲ見テ以為ラク數年ノ後必ス白人ノ為メニ
蚕食サレ遂ニ各一身ヲ容ルノ地無キニ至ラ

ン早ク慮テ其防禦ヲナサント時ニ怒親ナル土
 人ノ人アリ来テ之ヲプリモースノ住民ニ告ク
 然ルニ其住民彼ヲ虐殺シ又ワシパゴノীগス
 ノ三人ヲ捕ヘ苛責シテ遂ニ冤罪ヲ負ハセ之ヲ
 誅戮スヒリツプ之ヲ聞キ大ニ恐懼シ英人ノ共
 ニ敵ニ難キヲ知リ速ニ其難ヲ避ント欲ス然レ
 氏ヒリツプノ麾下之ヲ肯セス強テ酋長ヲシテ
 起サシム遂ニ麾下ヲ二十人或ハ三十八ニ分隊
 シ各マスサチヨセエツノ境界ニ於ケル村落ヲ
 襲ヒ民家田圃ニ放火シ其住人ヲ殺戮ス而メ援

兵ノ其地ニ到ラサル前叢林へ遁匿潜伏シ以テ
 敵ノ逐撃ヲ待ツ斯クシテ屢ハ殖民ノ精兵ヲ撃
 破シ其勢威日ニ熾ニシテ各所ノ住民ヲ驚怖セ
 シメタリ後少焉アツテ我船將チヨルチ三十六
 人ヲ伴ヒ海濱ニ彷徨ス時ニ三百ノ土人彼等ヲ
 襲ヒ撃ツ彼等巖石ヲ背ニシ以テ防戦スル殆ン
 ト六字間時ニ日暮レ暗黒ナリ加フルニ軍備尽
 ク適マ我小舟ノ来ルアリ即チ之ニ乗シテ逃レ
 漸ク生命ヲ保ツヲ得タリ此時ニ當リ酋長ヒリ
 ツプハ近隣ノ種族ニ説キ已レニ与ニセシメン

ト欲ス曰テ各所ニ往キ二三月ニシテ殆ント三
千人ヲ得タリ曰之ヒリツプ此等ヲ師ヒラ同盟
族ノ泥中ニ於ケル一島ニ往キ城砦ヲ築キ以テ
冬ヲ過サント欲ス英人即チ之ヲ聞キヒリツプ
ヲ獲ンカ為ノ一千ノ精兵ヲ送リ其砦ヲ攻メシ
ム時ニ冬十月ナリ然リ而メ英人其砦ヲ抜カン
ト欲シ屢ハ路ヲ泥中ニ取り敵ニ達センヲ努
ム然レモ或ハ泥中ニ沈没シ或ハ土人ニ逆撃サ
レ我兵死スル者尠カラス殆ント百方術尽キ如
何トモスルナシ偶マ一大樹木ノ泥中ニ横ハ

ルヲ見ル我兵即チ魚貫シテ此樹木ニヨリ漸ク
其砦ニ達スルヲ得タリ時ニ砦中ノ家屋既ニ五
百戸アリ爰ニ放テ我兵其家屋ニ放火ス土人暫
ク防戦スモ虫モ遂ニ我銳鋒ヲ文ル能ハス右往
左往ニ散乱ス曰テ土人ヲ斬ルト其數ヲ知ラス
然レモ酋長ヒリツプ及ヒナルヲガニセエツノ
酋長カノシチエト等其他無難ニシテ敗走セシ
者纒カアリ然レモ伏匿スルノ地ナク且ツ糧食
乏シ加フルニ酷寒ナルヲ以テセリ故ニ大ニ艱
苦ヲナス夫ノ酋長カノシチエトハ此戦後三四

月ヲ経テ遂ニ我捕ハル然ルニ彼レ勇敢驕傲ナ
ルヲ以テ更ニ屈スル色ナシ一日我兵士彼ニ問
フニ兵法ヲ以テス彼答テ曰ク汝乳臭ノ児何ソ
兵法ヲ解スルヲ得シヤ汝力ヲシテ爰ニ来ラ
シメヨ然ラハ其法ヲ教ヘント其自ラ尊大ナル
ト斯ノ如シ其後我軍彼ニ説ヒテ曰ク汝ヲ若シ
土人ニ説キ我ト和議ヲ為サシムナラハ我汝力生
命ヲ助ケント然レモ彼大ニ此言ヲ耻チ敢テ之
ヲ肯セス爰ニ於テ遂ニ彼ヲ射殺ス是ノ時ニ當
リテ酋長ヒリツプハ其勢ヒ奮ニ復シ各所ノ市

街ニ放火シ住民ヲ殺戮シ或ハ俘虜ヲ苛責シ其
惨酷甚タシ然レモヒリツプノ麾下糧食ニ乏シ
ク大ニ苦難ヲ受ケタリ時トシテハ蛤蜊ノ他更
ニ食フモノアルトナシ故ニ其勢ヒ日ニ衰ヘ餓
死スル者アリ又ハ船將チヨルチニ殺戮サレシ
者アリ或ハ俘虜トナル者アリ然リ而モ此俘虜
ノ中酋長ヒリツプノ妻子アリヒリツプ之ヲ見
テ深ク痛メリト云フ是ノ時ニ當リテヒリツプ
麾下多クハ彼ニ叛キ加フルニ英人彼ヲ驅逐ス
然レモヒリツプ決戦スル能ハス總カノ小勢ヲ

率ヒテ又ナルラガシセエツ灣ノ近隣ニ於ル泥
 澤ニ退去ス爰ニ於テチヨルチ軍ヲ率ヒテ之ヲ
 圍ニ直ニ其營ヲ衝クヒリツプ大ニ狼狽ニ出ル
 所ヲ失フ時ニ我カ伏兵ノアルヲ知ラス箭藪タ
 ル樹下ニ倚ル即チ其伏ニ遭フテ射殺サレタリ
 之ヲ以テ此役ノ結末トナス夫レ此役ニ於テ英
 人ノ殺亡サレシ者六百人焼失サレシ家六百戸
 アリ然ルニ土人ノ死亡スル者遙ニ我ニ超ヘ二
 個ノ大族滅亡ト更ニ遺類ナシル後數年間ニウ
 イニクランドハ靜寧ナリ

第十八章

ビルジニヤノ騷乱

前章ニ於テ記載セシビルジニヤノ断緒ヲ續キ
 今爰ニ其結末ヲ奉ク夫レ此國ニ居住セシ土人
 ノ酋長ボウハター死シ其弟ヲペカンカノ一兄
 ニ嗣キ酋長トトル此時ヨリ其土人我ヲ敵視シ
 遂ニ令争端ヲ開クニ至ル是レ全ク其故ナキニ
 アラス何トナレハ我住民ノ或ル者土人ヲ放逐
 シ或ハ穀物ヲ掠奪シ其暴逆ヲ為ス一日ニアラ
 ス爰ニ於テ土人積憤ニ堪ヘス為メニ此仇ヲ復

セント欲ス然レ尺彼尚オ我カ戎備ヲ緩フセン
カ為メ却テ懇意ヲ尽ス一日野獸ヲ贈リ以テ我
ヲ慰ム然リ而メ我カ備ヘナキヲ闕ヒ一時ニ各
所ノ住民ヲ襲フ我レ此不虞ヲ襲ハレ大ニ敗績
ス土人之ニ乘シテ我家屋ニ放火シ乱妨狼藉ス
然ルニ親懇ナル土人ノ一人アリ密ニ其前夜ゼ
ームストンノ住民ニ此謀略ヲ告ク故ヲ以テ其
住民ハ備ヲ設ケ明日土人ノ襲ヒヲ逆撃セリ是
レヨリシテ慘酷ナル戦ヒヲ初メ遂ニ土人ヲレ
テ敗績セシメタリ然リト虽モ我住民田畑ヲ耕

耘スル能ハス故ニ糧食乏シク大ニ窮困ヲナセ
リ一千六百四十四年夫ノ酋長ヲペカンカノ
ハ春秋高ク既ニ一百有餘歳ナリ然レ尺性尚オ
黠猾加フルニ身体社健ナルヲ以テ再ヒビルジ
ニヤノ住民ヲ盡殺セシメテ謀ル其策略ヲ施ス
ヤ深機密謀ニシテ進退時ナク出没常ナラス屢
ハ我住民ヲ襲ヒ殆ント数百人ヲ殺戮ス爰ニ於
テ我民酋長ヲペカンカノヲ擒ニシゼームス
トニニ檻送ス後藥クモナク之ヲ射殺セリ此ノ
時ニ當リテペルケルイナル者ヒルジニヤノ守

令タリ初ノ住民多ク望ヲ彼ニ帰ス然レモ守
 令遂ニ賦税ヲ厚フシ自ラ家ヲ富マスヲ以テ我
 民大ニ怒リ且ツ土人ノ未寇ヲ防ク為メ一ノ策
 略ヲモ設ケサル等ノ条々ヲ激訴スルニ至ル然
 レモバルケレイハ土人トノ戦争ヲ好マス加フ
 ルニ我カ民免許状ナクテハ土人ト貿易スルヲ
 得ス彼其状ヲ賣却シ大ニ富ヲ致セリ此役後殆
 ント三十年ヲ経テ土人復タ我ヲ敵視ス因之住
 民守令ニ請テ曰ク兵ヲ奉ケ我境界ヲ防禦シ而
 メ土人ヲ逆撃ヤレト然レモ守令曾テ之ヲ許サ

ス適マベコンナル者本國ヨリ到着ス其人タル
 ヤ英邁ニシテ驍勇ナリ曰テ友人彼ヲ懲懲シ兵
 ヲ起サシム彼又土人ノ我民数人ヲ暴殺セルヲ聞
 キ遂ニ兵ヲ奉ケ土人ヲ撃テ大ニ土人ヲ敗績セ
 シム然リ而モベコンハ守令ノ許可ヲ受ケス漫
 ニ兵ヲ奉クルヲ以テ守令大ニ怒ヲ發シベコン
 ヲ叛逆人ト告知シ自ラ兵ヲ率ヒテ其罪ヲ討ス
 時ニ一千六百七十六年ナリ斯テベコント決戦
 ス然レモ守令ノ軍利アラズ遂ニバルケレイヲ
 ゼームストンヨリ放逐シ且ツ其市街ノ家屋ヲ

長 國 史 卷 之 三 三十三

燒却シ以テ後患ヲ防ク借哉後直ニバコン病死
ス曰テバルケレイ再ヒ権柄ヲ掌握シベコンニ
与セシ餘黨ヲ誅殺スル一幾ント二十有餘人十
リ然リ而メバルケレイノ民ヲ馭スルヤ甚々暴
政ヲ以テラス故ニ守令ノ任ヲ解キ本国ニ帰帆セ
シ時住民大ニ歡喜ヲ為セリ然レモ此後ノ守令
同シク暴惡殘忍ニシテ私欲ヲ逞フセントシ屢
ハ住民ト爭論ヲ為セリ此擾乱ノ後復タゼーム
ストンナル街衢ヲ興サス其他ト虽モ更ニ杜鰲
ナル市街アルナシ且各所ノ住民モ煙草及ヒ玉

黍ヲ耕シ以テ生計ヲ營ムノミ是ノ時ニ當リテ
新民ノ旅行スルヤ小舟或ハ馬ヲ以テシ未タ曾
テ一定ノ道路ノアルナク藪林ヲ跋躑シ江河
ニ到ルモ亦渡船槁梁ノアルナレ且又家屋ヲ
建ルヤ皆窠々タル倭屋ニシテ尽ク木ヲ以テ作
リ未タ曾テ土石ヲ以テセス其窓ヲ開クヤ密ナ
ル蓋ヲ制シ未タ曾テ透明ナル硝子ヲ以テセス
学校ヲ建テ以テ子弟ヲ教育スルナク新聞紙
ヲ造リ吾人ノ知識ヲ益スナレシ野蠻同趣
ノ新殖民絶カ二百年ノ間ニシテ盛大開化ノ名

ヲ得ル誰カ之ヲ信セシヤ

History of America

Gen

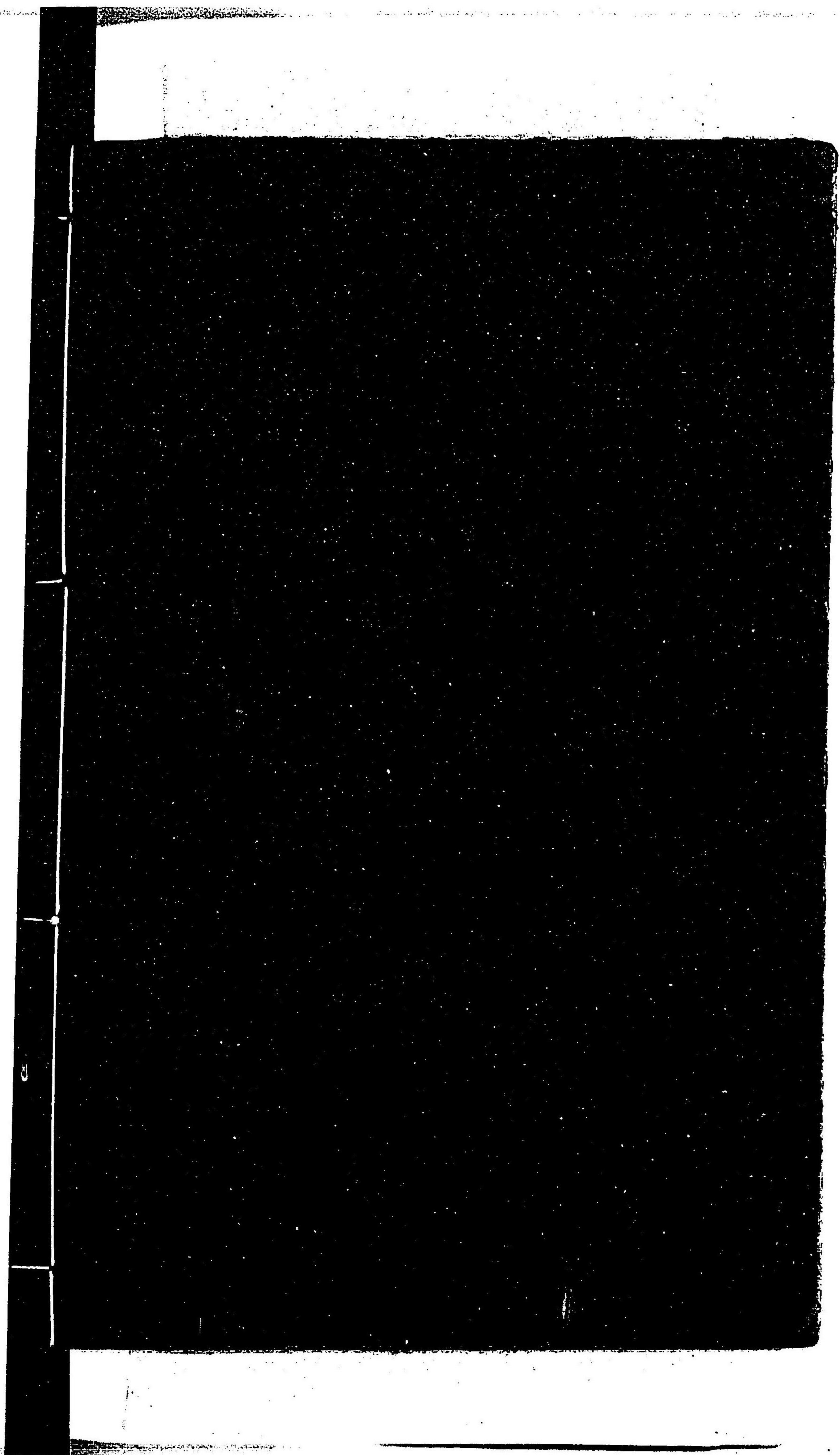
米國史卷之二終

福井信重 拔

東京

書肆

日本橋通一丁目	同 通二丁目	同 同	芝 神明前	同 同	同 同	淺草 茅丁	横山 丁三丁目	同 一丁目	空 丁二丁目	日本橋通十軒店	南傳馬丁一丁目	本石丁二丁目	宝 丁二丁目	大傳馬丁三丁目
須原	山城	小泉	和泉	岡田	和泉	須原	和泉	出雲寺	紀伊國	鈴江	近江	椀坂	大坂	袋坂
屋茂	屋佐	屋新	屋市	屋嘉	屋吉	屋伊	屋金	屋萬	屋源	木嘉	屋半	屋喜	屋藤	屋龜
兵衛	兵衛	兵衛	兵衛	兵衛	兵衛	兵衛	右衛門	次郎	兵衛	右衛門	七衛	兵衛	助衛	次郎



特3.1

625

館籍書會育教本日大

室 第

三	三
二	〇
冊	國

東

V.